

広報はむら

平成 25 (2013) 年

12 月 15 日号



📖 主な記事

1 特集 Weave ～男女共同参画社会の実現に向けて～

3 イベント情報

第27回羽村市ふれあい綱引き大会／郷土博物館 体験学習会
「まゆ玉だんごを作ろう！」

4 市政の情報

道路交通法の一部が改正されました／はい！こちら消費生活
センター／民生委員・児童委員の改選／シリーズ 地球温暖
化対策／放射線量の測定結果 など

8 年末・年始のお知らせ

10 情報アラカルト

14 こどものページ

15 人事行政の運営などの状況を公表します

📷 表紙の写真 (平成25年11月26日(火)撮影)

手作りのリースで迎えるクリスマス

東児童館で行ったおりがみ教室。羽村たつの子保育園の保育士の指導のもと、親子一緒にクリスマス・リースを作りました。

玄関や部屋などに飾れば、クリスマスを迎える準備は万端です。

羽村市公式キャラクター



はむりんのグッズなどを作ってくれる事業者などを募集しています！詳しくは、市公式サイトを見てりん！

はむりん

Weave

～男女共同参画社会の実現に向けて～

男女共同参画社会の実現に向けては、地域社会の活動の中で、男女がともに責任を分担し合いながら支え合うことが必要です。特に、防犯・防災分野では、男性と女性それぞれの視点を反映していくことが重要であるため、女性の積極的な参画が求められています。

今回は、消防団員として活動されている原山栄子さんにお話を伺いました。

問合せ 企画政策課企画政策担当④ 314



インタビュー

地域を守る女性のチカラ

～地域に密着した消防団活動～

羽村市消防団本部 班長：原山栄子さん

消防団に入団したきっかけは何だったのですか？

平成16年に双葉町松原町内会の町内会長に誘われて、当時行われていた女性防災コンクールに出場したことがきっかけです。その後、消防団に入らないかと声をかけてもらって、やってみたいと思って入団しました。

消防活動に興味があったのですか？

正直に言うと、興味はありませんでした。女性防災コンクールに誘われたときも、訓練もあるし、順位も決まるし、プレッシャーを感じてしまい気が重かったのが最初は断りました。でも、町内会長と話しているうちに、とらえずやつてみようということになったんです。

5人1組のチームで練習を始めたのですが、消防署の方が熱心に教えてくれて、チームが団結していききました。防災訓練には毎年参加していましたが、正しい消火方法や動きなどを学ぶにつれ、練習にも力が入っていききました。大人になってから、何かに真剣に取り組むということがなかったもので、すごく新鮮で、受け身だったものが主体的な気持ちに変わっていった、すべてが楽しくなりました。

コンクールが終わってしばらくしてから消防団の話があり、すぐに入団を決めました。

家族や周りの方からの反応はどうでしたか？

コンクール当時は、まだ小さい子どもがいたので、母に預けて訓練に行きました。子どもたちには「なんで行っちゃおうの」って泣かれましたし、夫からも、「なんでそんなことするの？」と言われてました。

訓練は夜で、仕事から帰って、急いで夕食の支度をして出かけるんです。

「行かなきゃいけない！」という使命感があり、苦ではなかったですね。消防団にも入団して、今では家族も「いつてらっしゃい」という感じです。私は一度決めたらがむしやりに突き進むタイプなので、家族は止めても無駄だと思っているんじゃないかな。

でも、子どもが少し大きくなって、消防士になりたいと言いだした時期があったんです。うれしかったですね。子どもが小さいころ、私の普段の活動の様子などをよく話して聞かせていて、私のまねをしていたんです。